

「どれやと思う？あててみて！」季節の壁面制作

— 小学生の特別活動 —

大阪精神医療センター分教室

1 はじめに

本分教室は、大阪精神医療センターに入院している、ハートケアが必要とする児童・生徒のうち、主治医から学習を許可された、小・中学生が通学している。小学部の特別活動の授業は、通年で同じ教員が授業を行っていたが、3年前から毎週月曜日の1時間目の朝学習の時間に学年別で授業を行うようになった。活動内容の企画・準備は小学部の教員が輪番で担当をしている。活動内容は、行事の事前事後学習、カレンダーづくり、季節の壁面制作を中心に行っている。

2 季節の壁面制作

月曜日に特別活動、火・木曜日に国語、水・金曜日に算数の授業を学年ごとに行っている。授業担当者は1週間ごとに輪番で回し、活動の流れは、朝の会、連絡帳の記入、ヨガ・トレ、プリント学習（制作活動）、絵本と、毎時間同じ流れで行っている。国語、算数のプリント学習では、一人でも取り組めるような内容の課題を用意しているが、集中して取り組めないことも多い。しかし、本分教室在籍の児童は制作活動が好きな児童が多く、制作活動には意欲的に取り組むことができている。また、経験不足な児童も多く、病院や施設等で長く生活をしているため、季節を身近に感じることも少ない。そのため、特別活動では、季節を意識した制作活動を行っている。月別の活動内容については、本稿最後のページに資料として記載をした。ここでは、特に印象的であった取組みを紹介する。

(1)夏の制作「かき氷はじめました」

夏の制作「かき氷はじめました」は、例年行っている児童から好評の制作活動である。作り方は、画用紙に印刷されたお皿とかき氷をはさみで切り、台紙の上に貼り付ける。予め、四角に切られているカラーセロハンを用意し、かき氷の上に、カラーセロハンを見立てて貼り付けている。活動に取り組む際、教員の見本作品を提示し取り組んでいるが、出来上がった作品は、どれも一つひとつ違い、個性的な作品になっている。用意している材料は、どの学年も同じであるが、同じ色だけ使用する児童や複数の色を使用する児童等、様々であった。カラーセロハンの貼り付け方も様々で、規則的に隙間なく貼り付けたり、様々な色のカラーセロハンを混ぜながら貼り付けたり、氷からはみ出して貼り付けている児童もいた。どの作品も個性的で、作品作りを通して児童の特性や性格を感じることができた。また、制作活動を行いながら、児童同士のやりとりや教員とのやりとりも豊富に行われた。自分の好きなかき氷の味の話やこれまで食べたことのある味、好きな食べ物など児童とのやりとりが広がり、児童のことを知る良い機会となった。



I 実践報告

(2)秋の制作「りす」「みのむし」

秋の制作では、合同制作を行った。壁一面の大きな枯れ木を用意し、1週間ごとに作品を増やしていきながら2週にわたって作品づくりを行った。「りす」作りでは、顔、耳、手、しっぽ等のパーツを予め用意し、各パーツを重ね、貼り合わせていきながら作品作りを行った。全く同じ形のパーツを使用した作品作りであったが、貼り付ける位置や貼り付け方が違うだけで、一匹一匹が違った、様々な表情のりすが出来上がった。翌週には「みのむし」作りを行った。制作活動の前には、普段見る機会はないみのむしについて紹介した後制作を行った。様々な色の画用紙の切れ端を用意し、児童がそれぞれ好きな色の画用紙を選び、好きな大きさや形に切り、みのむしの「みの」の部分に見立て、丸型に切ったみのむしの顔に貼り付けた。画用紙の切り方、貼り方も様々で、本物のみのむしをイメージして、全体を覆いかぶすように画用紙を貼り付けたり、ジブリのキャラクターをイメージしたみのむしをアレンジや工夫をしたりしながら制作をする児童が見られた。



(3)冬の制作「毛糸のオーナメント」「雪だるま・サンタクロース」

冬の制作では、秋の制作で使用した枯れ木に葉っぱを貼り付け、クリスマスツリーを用意し、1週ごとにオーナメントを増やしながらか、共同でクリスマスツリー作りを行った。「毛糸のオーナメント」作りでは、丸く切った方眼紙に16等分の切り込みを入れ、好きな模様になるように、切り込みに毛糸をかけていきながらオーナメント作りを行った。普段は些細なことでイライラしてしまったり、失敗することに抵抗感を感じたりする児童が多い。しかし、何度も繰り返し毛糸をかけなおしながら制作を行ったり、友達作品を見て参考にしながら制作を行ったり、切り込みの数を増やし細かい作業を工夫しながら行ったりする様子が見られた。「雪だるま・サンタクロース」作りでは、小さめの紙コップに帽子やひげなどのパーツを貼り付けた。顔はマジックやタックシールを使い作ったが、一つひとつ表情が全然違うサンタクロースや雪だるまが完成した毎週1つずつオーナメントを増やしながらかクリスマスツリー作りを行う中で、児童の期待感も高まり、特別活動以外の授業でもオーナメントを作りたいという児童が出てきて、他の学習活動へも広がりが見られた。



I 実践報告

3 まとめ

特別活動では、季節の壁面制作を中心に作品作りを行ってきた。そのため季節に応じた制作活動を行う中で、どんな気候になると、どんな動植物が育つのか、それぞれの季節の行事や季節に沿った食文化について、活動を通して学び、季節を感じる良い機会となった。

制作内容は1～6年まで同じ活動を行っているため、制作を行う手順を明確にし、わからないときには質問ができる環境づくりを意識した。そのため、作品作りが苦手な児童や不器用な児童も安心して制作活動に取り組むことができた。同じ材料や手順で作品作りを行っていたが、友達が作っている作品を見て、真似をしたり、アレンジを加えたり、お互いに刺激を受けながら作品作りに取り組む姿が見られた。

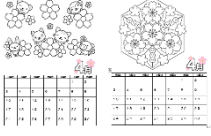
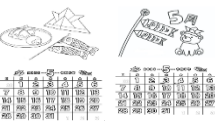




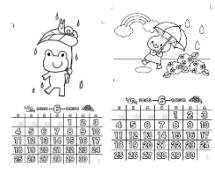



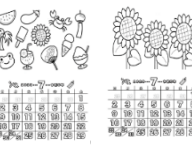


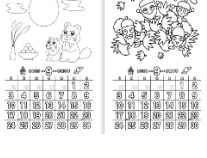






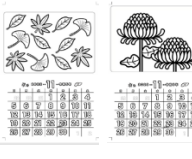


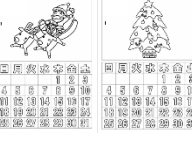


作った作品を毎回掲示していく中で、多くの児童が自分の作品が掲示されることを楽しみにしていた。「ぼくのどれやと思う?」「○○ちゃんのうまいな!」等、作品を通して、児童と教員、児童同士のやりとりが増えてきた。

作品はすべて退院時にまとめて持ち帰ることができる。児童は作品への愛着から持ち帰られることをとても楽しみにしている。ふと気付いたことがあった。自分たちの作った作品が大切に掲示されることで、物や人に対して暴力をふるってしまう児童が多い中、掲示してある作品を乱暴に扱う児童は一人もおらず、友達の作品も大切にすることができていた。

特別活動の中での季節の制作を通して、経験や知識の幅を広げ、季節を感じることでただけでなく、自尊感情を高め、他者を尊重する気持ちを育むことができた。来月の壁面制作は何にしようか、小学部の教員は今後も頭をひねり続ける。

I 実践報告

資料

4月	日直カード 宿題カード	4月カレンダー 	5月カレンダー 		
5月	くるくるこいのぼり 	運動会事前学習 	運動会プログラム挿絵 <ol style="list-style-type: none">1. 開会の挨拶 (4月10日)2. 運動会開始 (4月11日)3. 応援合戦 (4月12日)4. 閉会の挨拶 (4月13日)5. 運動会終了 (4月14日)6. 退会 (4月15日) 	運動会旗作り 	6月カレンダー 
6月	雨のしずく 	何の時間? 	てるてるぼうず 	7月カレンダー 	
7月	七夕かざり 	かき氷はじめました 			
9月	9月カレンダー 	オシャレとんぼ 	おもいをつくろう 	10月カレンダー 	
10月	コスモスづくり 	学発プログラムづくり 	ハロウィンかざり 	11月カレンダー 	
11月	学発事後学習 学習発表会動画視聴	りすづくり 	みのむしづくり 	12月カレンダー 	
12月	オーナメントづくり 	ミニサンタ・雪だるま 	1月カレンダー 